

セッション 1

韓国の北東アジアにおけるエネルギー戦略

韓国エネルギー経済研究所国際エネルギー研究センター研究員 イ ソンギョ

韓国の北東アジアにおけるエネルギー戦略について、3つのテーマを取り上げたい。一つは世界のエネルギー分野における北東アジアの位置。二つ目は、北東アジアにおけるエネルギー部門における協力の可能性。三つ目は、韓国のエネルギー部門における戦略政策だ。

世界のエネルギー部門における北東アジアのシェアをみると、非常に大きな資源消費国であることが挙げられる。一次エネルギー消費量は2030年まで右肩上がりに増えていくと予想されている。アジア太平洋地域における2020年までのLNGの需要予測も増加傾向にある。中国の原油のネット輸入量も増加する。

韓国の2007年度の状況を見ると、輸入依存度は96.7%。エネルギー資源の中で原油への依存度が非常に高く、原油輸入額は600億ドルに達している。石炭と石油の輸入のうち、ロシアからの輸入量は非常に少ない。我々の研究所と政府機関との協力において、新しい長期エネルギー政策を策定しているが、その中で2030年の一次エネルギー需要構成の予測を行った。石油は2007年の45%から2030年には33%に減少し、LNGは15%から12%に減少する。ただし、消費量自体は増加する。原子力は13%から28%に増加するほか、再生可能エネルギーも増加する。

北東アジアでは、エネルギー安全保障を高めていく可能性がある。そのことにより、安定的な資源供給、投資の拡大、エネルギー資源開発が促進できよう。また、省エネルギーの推進とCO₂排出量削減の可能性もある。こういう努力がこの地域における政治的緊張を緩和する触媒の役割を果たすこともありうる。エネルギー部門における協力は、エネルギー生産を引き上げ、石油・天然ガス市場を拡大させ、そして北東アジア、特にロシア極東地域におけるエネルギー関連インフラ整備に対しても非常に大きな役割を果たすものと期待される。

東シベリアからの石油、ガスのパイプラインの建設や地下資源の開発は、イルクーツク、ヤクーチアやサハリン州の経済成長に大きな役割を果たす。また、下流部門である石油化学工業での協力プロジェクトもある。ロシアは経済成長中で、これに合わせてインフラ整備を進める必要があるとともに、エネルギー以外の産業発展による産業構造の多様化、エネルギー資源の輸出市場の多様化を図る必要がある。

他方、韓国、日本はエネルギー安全保障の強化を図る必要がある。韓国も日本も下流部門で非常に豊富な経験、技術的蓄積があるほか、官民のパートナーシップが確立されてきている。北東アジアのLNG市場において、ロシアは最も有望な供給国になる。韓国はウラジオストクやサハリンからのLNG、パイプラインガスを輸入する予定だ。サハリン1、サハリン3、チャヤンダ、コビクタのガスが、韓国、日本、中国やアジア太平洋諸国にパイプラインやLNGタンカーによって輸送される。韓国、中国、日本はロシアとともにこれらの産地を共同で開発していくことができよう。今は、こうした国際的コンソーシアムを構築するのに適した時期である。ウラジオストクから北朝鮮経由で韓国西部のインチョンまで、または韓国東部のサムチョクまでのパイプラインの敷設が計画されている。

現在の最大の問題は、アメリカ発の金融危機であり、エネルギー資源その他の商品に対する消費を大きく引き下げる原因となった。この市場状況は、いろいろな要素が絡み合って進行しており、消費だけでなく、ロジスティクス部門にも大きな影響を及ぼしている。我々は力を合わせてこの困難を克服しなければならない。

北朝鮮問題に触れたい。最近、アメリカがテロ国家指定解除したが、これは六カ国協議の場で北朝鮮の核問題を話し合う大きなチャンスが出て来たことを示唆している。また、アメリカの大統領選挙でバラク・オバマ氏が新しい大統領に選出されたことで、例えば朝鮮半島問題や北東アジアにおけるエネルギー協力の進展が期待される。北朝鮮が国際社会に近づき、国際金融機関に参加する可能性が出てくる。さらに、今後の北朝鮮の変化によって、北東アジアにおけるエネルギー分野での協力体制の中に北朝鮮も参加する可能性が高まる。北朝鮮は、自由で公正な国際的なルールに則った協力体制を構築する方針を持っている。韓国としては、自由で公正な貿易体制の構築、投資の誘致や保護、環境保護に向けた政策を構築し、北朝鮮を含めた多国間の協力体制を構築することを考えている。

韓国は、二国間協力と多国間協力を並行して進めている。最近、韓国政府はモスクワでロシアとの首脳会談を持ち、エネルギー部門も含めて、二国間経済関係を拡大することについて話し合った。電力、原油、天然ガスの輸送システムを構築するためには、多国間協力が不可欠である。韓国

政府としては、消費者、生産者間の協力体制を強化することを優先課題としている。韓日首脳会議において、ロシアは約100億m³の天然ガスを北朝鮮経由のパイプラインで韓国に輸送することに合意した。共同でロシア極東地域における石油化学・ガス化学産業の振興を図る。また、両首脳は西カムチャッカ及び東シベリアでの資源開発にも合意した。この合意が実現すれば、北東アジアのエネルギー協力にとって大きな利益となり、世界のエネルギー安全保障面でも大きな意義を持つ。両国首脳は、北朝鮮に近い将来、北東アジア共同体に参加することに楽観的な見通しを示し

た。現在、両国政府はプロジェクトのアクションプランを作成中だ。石油、ガス、石炭、電力、あるいは石油化学部門における協力体制整備に向けて話し合いを行っている。

北東アジアにおける生産者、消費者間の協力のメカニズムとして、エネルギー協力のための政府間協力の機構が設置され、さらにその下の作業グループの活動によって政策立案がなされている。協力が進むことによって、北東アジア市場はロシアにとって非常に有望な市場になるだろうし、北東アジア各国にも利益をもたらすだろう。

(文責：事務局)